

No.	課題	個人名/組織名	推薦者	概要	効果	該当事業種別					
						発信・表彰	市民協創	チャレンジ	社会貢献	地域貢献	その他
						7	8	14	3	4	0
1	ミッション大戦・関西EXPOで生駒をPR*	2025大阪・関西万博若手職員ワーキンググループ 香月ひかり（総務課）、大信田青倫（市民課）、島田延月（牧野課） 化野駿（地域コミュニティ推進課）、西田悠梨香（市民活動推進センター） の塚朝希（消防署本署）、高山百合（企画政策課）	総務課、市民課、牧野課、地域コミュニティ推進課、市民活動推進センター、消防署本署、企画政策課 所属長 森澤通、坂本和美、嵯峨大、藤川孝史、大塚弥生、辻本美奈、牧井望	・大戦・関西万博の夢の国会場で生駒市の観光資源を中心とした本市PRを企画、運営。 ・4月の「ALL NARA MARKET」では、宝山市、山上遊園地といった生駒山の観光を盛りめる360°VR動画の体験ブースをNABT東進東塾及び学生と連携して実施。 ・9月の「ALL NARA HARBOURV」では、高山希望など竹製品の展示とかつのワークショップ（希望の素材を使ったアクセサリーづくり、竹灯籠のデザイン）を行った。	・4月、9月発車（6日曜）に約2万8千人が来訪。テラシ、カード等PR素材も多数配布。 ・観光VRは約600人が体験。アンケートでは9割以上が生駒市への来訪意欲あり。 ・万博期間中の本市での訪日外国人滞在者は前年比1.4倍で全国市町村で10位。 ・万博期間中の市内宿泊施設の宿泊数は前年比1.3倍の伸び。		○	○			
2	学びを地域貢献につなげる「チラシ制作スキルをまんやで市民活動に活用する「Canvaでプロポ」	市民活動推進センターからポート主事 西田 悠梨香	地域コミュニティ推進課課長 大田勢生	市民活動団体は、高齢化やデザインスキルを持つ人材の不足により、活動の認知が進みにくい課題があった。そこで、現世代の市民がデザインアプリ「Canva」を学び、既存のチラシを制作する市民活動団体「Canvaでプロポ」を企画した。西田さんは、講座プログラムの作成、団体の構築、ヒアリング検討、素材収集、参加者フォロー、前席との連携を一手に担い、初開催にも関わらず安定した運営体制を構築した。	①参加者への効果・・・全員がアンケートで「満足、ほぼ満足」と回答。地域が良くなるための行動をしたい意欲（NPS）は参加前▲2.2→参加後88.9に大幅上昇した。 ②講座への反響一定数18名に対し、88名の応募が集まり、高い関心で寄せられた。 ③団体への効果→3団体はチラシデザイナーを産出。西田さんの提案で市内公民館施設で実施したところPTAからの出張依頼や団体への入会希望者が増えた。		○	○			
3	生駒市立病院 開院10周年記念式典の開催～市民・事業者と共にこれまでの10年を振り返る～	地域医療課（病院長兼推進係・地域医療推進係）	子育て健康部 地域医療課課長 知渡太一	○令和7年6月15日に「生駒市立病院開院10周年記念式典」を開催。 ○記念式典は、6部制で、桜丘小学校ハーモニックバンドクラブや生駒中学校吹奏楽部による演奏、感謝状贈呈、バネムディスプレイ、記念絵巻表紙式、奈良県立医科大学教授による記念講演演説を開催した。	○式典の参加者は約650名。アンケートでは、90%の参加者が式典会場に「満足、やや満足」と回答があった。 ○病院のこれまでの取組について感謝する場を持つことにより、病院長が誇りをもって働くことができるとともに、市民満足度が向上する。 ○病院のこれまでの取組を知るとともに、今後の地域医療のあり方について考える機会となった。	○	○				
4	救急救命士の専門性を生かした救急医療人材育成への挑戦	消防本部予防課 山田浩平 消防署南分署 田中聖典、田中辰寿、名倉由造	消防本部消防署南分署 分署長 久保大寿	1期生職員である救急救命士として、市の特別企業等への就業制度を活用し、専門学校救急救命士コースの前期実践研修を兼ねている。日々の救急現場で培った経験を生かし、即戦力となる救急救命士の育成に取り組んでいる。この活動は、公務に支障が出ないように配慮したうえで行っており、地域医療の未来を支える人材育成につながっている。	授業では、実際の救急現場を具体的にイメージできるように指導を行うことで、学生の理解を深め、学習意欲の向上を図っている。あわせて、安全管理や判断力に加えチーム医療におけるそれぞれの役割の重要性を伝えることで、質の高い救急救命士の育成につなげ、結果として地域医療の救急医療水準の底上げに貢献している。						○
5	市内企業とのコラボレーションによる防災・防犯広報について	消防署 北分署救急第1係 消防士 梶（北分署救急小隊） 古賀菜穂	消防署北分署 北分署長 梶 史史	本市消防職員の消防士長 古賀菜穂は、生駒市消防本部と生駒署警署が、生駒市内の企業である高山製菓とコラボレーションして、対象の商品を購入した際にもらえるオリジナルレシオを作成しました。 オリジナルレシオは、消防と警署の啓発サイトが読み取れる二次元コードを印刷し防災・防犯を呼びかける広報活動を実施しました。 3機関による共同作成は、奈良県内で初の試みとなりました。	・家族で防災・防犯について話し合いをすることができたことや、住宅用火災警報器の設置・維持管理及び救急車の適正利用を広報することができました。 ・高山製菓とコラボレーションすることで、市外から商品を購入する方々にも「生駒消防」の取組みを広報できました。	○					
6	第53回 全国消防救助技術大会「ロープ応用登山」に出場・入賞！	消防署 北分署警備第3係 消防士 酒田 虎太郎 消防署 南分署予防第2係 消防士 松下 知輝	消防署北分署 北分署長 梶 史史	・本市消防職員の消防士 酒田虎太郎及び松下知輝の両名は、令和7年8月30日に開催された「第53回全国消防救助技術大会」（兵庫県三木市）において、「ロープ応用登山」の種目で奈良県代表として出場し、見事入賞を果たしました。	消防の救助技術を競う全国消防救助技術大会に出場し、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮して優秀な成績を収め、個々の優秀な救助技術のスキルアップのみならず、更なる市民への安心を確保することに繋げ、他の隊員の模範となり、消防組織の士気向上の一助となりました。			○			
7	高山希望の世界発起と生駒山ブランド戦略の深化による観光促進	地域活力創生部 商工観光課 観光振興室	地域活力創生部 商工観光課課長 岸本 大介	高山希望は「COOL JAPAN AWARD 2025」を受賞し、その文化的価値が広く評価された。また、大戦・関西万博「LOCAL JAPAN版」では制作実演や展示を行い、国内外の注目を集めた。さらに、企業制作実演、日本食やアタセリング講座、夜の宴会を組み合わせた地域伝統食商品造成し、高付加価値の体験を創出した。あわせて、生駒山ブランド推進協議会には近況が加えられ、ミシュラン星獲得をめざす広域連携も深化した。	高山希望の創発的評価が向上し、万博展示によって国内外への認知が拡大した。テレビ・新聞・雑誌など各種メディアにも相次いで取り上げられ、発信効果が上がった。創出した観光商品は、伝統文化と食を組み合わせた若手世代から若手知識者の増進として注目され、地域事業者との連携の広がりが見られている。また、生駒山エリアは「夏の人気上乗エリア全国10位」となるなど誘客効果も見られている。	○		○			
8	全国広報コンクール(広報企画部門) 入賞	経営企画部 広報広聴課 プロモーション係	経営企画部 広報広聴課課長 三田 慎哉	・令和7年全国広報コンクール（主催：公益社団法人日本広報協会）の広報企画部門で、市民と協働した「いこまちマーケット」をまとめた企画が特選に次ぐ賞である入賞となった。	・市民と協働した「いこまちマーケット」を行うことにより、生駒の魅力発信や働き盛り世代の地域参画を推進した。 ・令和5～6年度にマーケットを3回実施。出席者53店舗、来場者約3,000人になり、多くの人にまちの魅力を伝えた。	○					
9	ふるさとCM大賞NARA2025ユニーク賞受賞！	経営企画部 広報広聴課 広報広聴係	経営企画部 広報広聴課課長 吉田 慎哉	ふるさとCM大賞NARA2025は、ふるさとCM大賞NARA実行委員会（市役所テレビ放送部）主催による、市内の市町村が「ふるさと」の良さやPRする、手作りの30秒CMを制作するコンテストで、令和3年度に始まり、令和6年度が4回目。今回は、ふるさと納税の返礼品で人気No.1のレンボララムを中心に、ふるさと納税のPRを行った。	出品した作品「魅力、レンボラー1」は、市内自治体21作品のエントリーの中から、ユニーク賞を受賞。副賞として、奈良テレビで令和7年度に年間30回以上CMが放送されている。 （参加賞の場合は、年間10回の放送）	○					
10	勤務情報システムの更新	総務部人事課人材育成係・給与係	人事課課長 小澤 将之	勤務情報システムは運用から15年近く経過しており、職員のライフスタイルに合った柔軟な働き方に対応できないことに加え、システムのサーバーやタイムレコーダー等のハード面の老朽化に伴うトラブルが今後懸念されることから、プロポーザル方式によりシステムを総入れ替え、更新作業を実施し、令和7年度から本番稼働を開始した。	今後導入を目指すフレックスタイム制度をはじめとした多様な働き方に対応することにより職員の満足度向上に資するとともに、消防職員(約140人)、市内小・中学校における会計年度任用職員(約200人)及び県費負担職員(約650人)がシステムで管理できるようになり、運営部署の負担軽減に繋がった。				○		

No.	課題	個人名/組織名	推薦者	概要	効果	該当事業種別						その他
						発信・表彰	市民協創	チャレンジ	社会課題・移行	地域貢献	その他	
						7	8	14	3	4	0	
11	25年ぶりの作業服のリニューアルを職員間で実現	後援部人保課採用係	人保課 課長 小澤 司之	本市の作業服は長年更新されてきた。改善の声を数多く聞いていたことから、全職員アンケートを実施の上、部局横断のワーキンググループを設置し機能性、快適性等の観点から検討を重ね新作作業服を決定し、全職員に一斉に貸出した。 また「生協」で職員総体貸貸費と貯蓄を全面的にリニューアルして、貸出・購入基準を見直し、新たにデータベースシステムを利用して数量管理を行うことでペーパーレス化とDX化が進んだ関与管理を行えるようになった。	職員の意見をもとに作業服を選定し、機能性、快適性が特に高い向上したことで、職員のモチベーションの向上に繋がった。また、デザイン性が上がり、生協市及び職員のイメージ（ブランド価値）がアップに繋がった。 さらに、貸与規程と総管理手法を見直し、貸与物品の数量管理が徹底できるようになった。			○				
12	更なる公金管理運用を目指して！！（安全・効率的な公金管理運用により収入増を目指す）	会計課 会計課職員及び構築に携わった職員	財務部 課長 伊田 明年	会計課では、市の公金について収入・支出事務を行っている。いわゆる財務事務を担っている。少し余裕がある時は、緊急を行うという運用をしているが、会計上と異なっていく中で、異なる運用を考へ、公金管理運用指針（以下、「指針」）を大きく改訂し、昨年度業務購入の一部取り入れた。今年度は、年度ごとに指針を策定するとともに、継続的な運用ができるように、ラダー型運用を行い、完成させた。	・物価高騰が続く中で、少しでも収入を増やし、事業に回すことができたいという考えのもと、指針として運用を考えた。地域貢献を重視し、5年までの長期・中期的な視点を導入することにより、定期預金以上の利子が収入となり、今後の事業に充てていくことができることとなった。			○		○		
13	10～20代による、本をテーマに交流するコミュニティ「本読部（ほんよくぶ）」の活動紹介	本読部・生涯学習部 国川園分館	生涯学習部 国川園 館長 西野 貴子	本市在住・在学の中学生から20代までで構成された、本をテーマに交流するコミュニティ。原則、毎月第2・4土曜日に国書館内分館で活動する。若者世代が読書に親しむ機会を作り、本読を解消する目的で平成30年に開始。「本読部（ほんよくぶ）」と題してイベントの企画・運営、学習者への出席率の向上、および本を紹介した手紙の発行や分館での書架作り、電子書籍の運営等、取組は多岐に渡る。	本読部の部員の声として「好きな本や推しの話ができる」、「年齢に関係なく読める」、「読書のことを相談できる」等があり、本読部という場が部員同士が交流できる、家庭でも学校でもない、サードプレイスとして機能していると考えられる。また、本読部による様々な取組は、大人から子どもまでなく、子どもから子どもへ本を手渡すきっかけ作りとなっており、若者世代の読書推進に貢献している。			○	○			
14	習分幼稚園へなばた幼稚園の交流保育～子どもの学びをつなげる～	習分幼稚園・なばた幼稚園	幼稚園こども園課 次長 山口 恵子	習分幼稚園は平成9年度からの「（併設）習分こども園」開園に向けた工事を令和7年度から行うため、なばた幼稚園において交流保育を実施しています。 交流保育は、それぞれの園としての運営を行いながら、両園の園児が交流できるよう、職員が役割を兼任し工夫を凝らしています。その結果、運動会や作品展では、2園合同の人数を活かした活動も実現となり、こどもたちの学び、育ちにつながることであります。	令和7年4月、なばた幼稚園は全園児で34名ですが、そこに習分幼稚園の園児（全園児で56名）が交流することで、華やかさ生まれ、活発な園庭につながることであります。 また、交流保育によって大きな集団ができ、その集団の中に遊びごとのグループが生まれ、その中で自分や表現し友達とのコミュニケーションが広がり、こども同士が学び合う環境が育まれています。			○				
15	全国何？！250人規模の避難所運営訓練！	危機管理課及び協力職員（避難所自治会事務局・避難所担当職員）等	経営企画部 参事 杉浦 弘和	■概要 訓練当日15時より南海トラフ地震が起こり、電気や水道などのライフラインが止まっている仮定で避難所を開設することを想定し、11月1日（土曜日）から2日（日曜日）にかけて、実況、C体気配で避難所開設訓練を実施した。 ■参加者 市職員、他自治体職員、一般市民、協定事業者等約254名 ■目的 ①避難所運営の標準化 ②保護者の再確認 ③市民員や協定事業者等の役割の明確化	○参加者から避難所の設置・運営イメージが深まり、被災時の断水や停電が想像できたとの声があり、家庭の備蓄品や非常持ち出し品の見直しが必要であることを理解された。 ○アンケート結果 ①実際の避難所の設置や運営を体験し、設置のイメージが深まった（98%） ②家庭の備蓄や非常持ち出し品について見直しをと思った（97%） ③災害時には避難所の運営に積極的に協力したいと思う（92%） ④自治体間の関係の見える関係性を構築できた			○	○	○		
16	広べ3,000人以上が参加！各地区防災訓練×市職員一筋の見え方化～	危機管理課及び協力職員（避難所自治会事務局及び避難所担当職員）	経営企画部 参事 杉浦 弘和	■経緯 4年一度の総合防災訓練の年として、各地区自治会連合会が主体となって実施 ■内容 各地区の特性を出しながら、指定避難所等や避難施設、安否確認、避難者の受け入れ、避難所の環境整備等の訓練を5地区11か所で実施。3,000人超の市民が参加された。 ■本訓練への支援 補助率1割の補助金交付や危機管理課職員の伴走支援、そして各地区の協力職員が訓練へ参加	1.各地区で複数の自治会が連携して実施したので、地区間の連携が深まり、共同の向上につながった。 2.市職員と地域の顔の見える関係が構築できた。			○		○	○	
17	これぞチーム力！全職員が協力した総合防災訓練や災害対応能力向上のための取組	令和7年度総合防災訓練参加者 生協市災害対策本部 各課	経営企画部 参事 杉浦弘和	令和7年度は総合防災訓練の年として、4月の南海トラフ地震発生を訓練に始まり、10月に防災訓練会、防災マラソン、10月に避難所開設訓練、10月～11にかけて各地区自治会連合会主体の地域訓練、そして11月に災害対策本部訓練を実施した。 これら以外にも、防災関係機関と連携した訓練などを年間を通して実施し、職員の災害対応能力の向上に努めた。 （災害ボランティアセンター運営訓練や物資輸送訓練、防災教育推進所開設訓練への参加のほか、防災に係る勉強会、意見交換会を開催）	○総合防災訓練では、多岐多様な訓練を組み合わせたことで市民や職員の防災意識が向上 ○災害対策本部訓練では、生協市で想定される事業や対応策について意を越えて検討することで、各課の役割や動きを認識 ○生協市社会福祉協議会や災害対応協議会各事業者等との顔の見える関係を構築			○	○	○		
18	「市民みんなで創る音楽祭10周年 チャレンジコンサート」開催	生涯学習部 生涯学習課 文化振興係	生涯学習部 生涯学習課 課長 奥田 和佳子	市民による公開観覧型で実施されてきた「市民みんなで創る音楽祭」も令和7年度で10周年を迎えた。今後の音楽祭への参加者のイキガミを広げる目的で、新たな演奏家を協賛しインモータル市民音楽祭の丘のならとみコートを会場に「チャレンジコンサート」を開催した。 日程：令和7年8月2日（土）11:30～16:00 会場：インモータル市民音楽祭丘丘3F ならとみコート 出演：11組	ショッピングモールという多くの人が行きかう場を会場とし、できるだけ若い世代をターゲットに募集したところ、今までで把握できていなかったミュージシャン、演奏家から想定をうねる反応があった。 このコンサート企画をきっかけに近未来の「市民みんなで創る音楽祭」へ新たなジャンルを加えることができる機会となった。			○				
19	タブレットを活用した「介護認定審査会」DX化事業	福祉部 介護保険課 認定係 デジタルイノベーション推進課	福祉部 介護保険課 課長 上野 啓介	認定係では認定審査会資料のペーパーレス化を実施し、認定審査事務の効率化を図った。 次の段階として、認定審査会のオンライン開催を実現し、職員だけでなく、審査委員の負担軽減にも取り組んでいく。	【経員の負担軽減】 ・資料作成に係る作業時間の短縮 約135分/回 → 約30分/回 ・資料送付日数の短縮 2日程度 → 即時 ・事務の効率化により審査期間の短縮や申請・認定の適正化が図れる。 ・今後増加する申請に対しても1回あたりの審査件数を増やすなど対応が可能。 【経費の削減】 ・5年度の経費試算においては、約2,000千円の削減が見込まれる。 ※タブレット購入やシステム導入費には要の増加分(1/2) を適用			○				
20	いこみなエリアの再整備に向けた実験的取組（イコミナ開放区・いこみなチャレンジ）	都市づくり推進課・拠点形成室	都市整備部 次 長 有 山 将 人	1. イコミナ開放区（所得性・同様に向上のための社会実験） 金融機関選定を「勝ち組」にするため、金融機関選出の社会実験を実施。①10/20～26立候補中央地区 ②12/15～21イコミナサウスモール前 2. いこみなチャレンジ（生協市国川園エリア事業推進プログラム） いこみなエリアを一環に面白くしていくチャレンジを見つけるため、エリアの広さ物件を活かした開業・起業を支援する実践者とともに支援	1. ①では約1万2,000人が利用し、15店舗が出店。②では約3,000人が利用し、10店舗が出店。客数は通り過ぎるだけの量販に、思いやりのある出店や、ききやな集めの風景が見られ、利用者からも出店者からも好評を得ることができた。 2. 市内から100名超の証明申請があるなどエリアへの高い関心が裏付けられ、エリアを面白くしたいと本気で考えるプレイヤーも、エリア・物件への思い入れを持つ所有主が揃っていることができた。2/18まで2物件、ガバメントクワッドファンディング実施中。	○	○	○		○		
21	生協市清掃センターの有効活用	地域活力創造部 福祉安全課 施設係	地域活力創造部 福祉安全課 課長 河島 貴明	清掃センターのごみ処理量が年々減少して処理能力に余裕がある一方で、電気代や人件費等のコストにより処理費用の増加への対応が課題となっていたところ、平時町及び環境部から見えるごみ受け入れについて依頼があった。このことを踏まえ2町との協議や他社への依頼を行い、過去に処理実績の範囲内において2町のごみを受け入れ、本市の財政負担低減に繋げる。	令和8年度の予定では、2町からの収入において約2億4千万円が算出される。 2町からのごみの受け入れにより、維持費は約9千万円増加するものの、清掃センターの運営に係る人件費や点検費等の固定費をごみ量で変動することにより、約1億5千万円の維持管理経費の削減が図られる。			○				